日田市埋蔵文化財調査報告書第85集

日田条里千躰地区

２００８年

日 田 市 教 育 委 員 会

序　　文

日田市の市街地中心部に存在し、多数の商業施設や住宅地を抱える咸宜地区はまた、重要伝統的建造物群として指定を受けた豆田の町並みや、江戸時代の私塾跡である国指定史跡咸宜園跡をもその区内に擁し、現在の日田観光の中心ともなっています。

本書は、この咸宜地区住民の諸活動の中心となるべき咸宜公民館の建設に伴い実施した発掘調査の内容をまとめたものです。調査では、古墳時代に遡る可能性がある溝や、土坑・柱穴などがみつかり、市街地にありながらも比較的古い時代の人々の生活の痕跡が残っていることがわかりました。

国指定史跡の至近距離において得られたこれらの貴重な調査成果をまとめた本書を、文化財の保護や普及啓発、また学術研究などにご活用いただければ幸いです。

最後に、調査に快くご協力いただきました咸宜小学校をはじめとする各関係機関・関係者の方々、そして黙々と作業に従事いただきました作業員の皆様方に、心より厚くお礼を申し上げます。

平成20年３月

日田市教育委員会
教育長　合原　多賀雄

例　　言

1．本書は、市教育庁生涯学習課が計画・実施した咸宜公民館建設事業に先立ち、平成18年度に市教育委員会が 実施した、日田条里千躰地区の発掘調査報告書である。

2．調査にあたっては、市教育庁生涯学習課、日田市立咸宜小学校および地元の方々にさまざまなご協力をいただ いた。記して感謝申し上げます。

3．調査現場での遺構実測は調査担当者が行ったほか、有限会社雅企画に委託し、その成果品を使用した。また現 場での写真撮影は調査担当者が行った。

4．本書に掲載した遺物実測および遺構・遺物の製図は調査担当者 が行い、中川照美(日田市教育庁文化財保護課整理作業員)の協 力を得た。

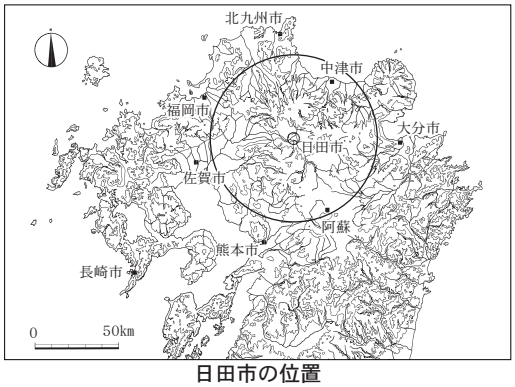
5．遺物の写真撮影は調査担当者が行った。

6．挿図中の方位は全て磁北を示す。

7．写真図版の遺物に付した数字番号は、全て挿図番号に対応する。

8．出土遺物および図面・写真類は、日田市埋蔵文化財センターに て保管している。

9．本書の執筆・編集は、行時が担当した。



日田市の位置

目　　次

Ⅰ　調査に至る経過と組織 ……(2) 1

Ⅱ　遺跡の立地と環境 ……(2) 2

Ⅲ　調査の内容 ……(2) 3

⑵　調査の概要 ……(2) 3

⑵　遺構と遺物 ……(2) 3

1）　溝 ……(2) 3

2）　土坑 ……(2) 5

3）　撹乱坑 ……(2) 5

4）　その他の遺物 ……(2) 5

Ⅳ　まとめ ……(2) 7

挿図目次

第１図　遺跡位置図（1/10,000）……(2) 1

第２図　周辺遺跡分布図（1/25,000）……(2) 2

第３図　周辺地形図（1/4,000）……(2) 3

第４図　遺構配置図および土層図（1/100、1/60）……(2) 4

第５図　出土遺物実測図（1/3）……(2) 6

表　目　次

第１表　出土遺物観察表 ……(2) 7

本文写真目次

写真１　調査前風景

写真２　調査風景

写真３　文科省研修生の発掘体験

写真４　史跡咸宜園跡の古代～中世の集落跡
（１次調査／平成４年度）

写真図版目次

写真図版１　調査区全景（東から）（北東から）

写真図版２　1･２号溝(南から)／２号溝掘下げ状況

⑵　２号土坑サブトレ土層

⑵　調査区南壁（C－D）土層

⑵　調査区北壁（E－F）土層

⑵　調査区中央（G－H）土層

⑵　遺物写真１（1号溝、調査区南壁C－D土層）

⑵　遺物写真２（撹乱坑）

写真１　調査前風景

写真２　調査風景

写真３　文科省研修生の発掘体験

Ⅰ　調査に至る経過と組織

高　平成15年夏、主管課（市教育庁生涯学習課）より、市民会館の建替に伴い隣接する中部公民館を新たに建設する計画があり、その予定地における埋蔵文化財の有無について当課あてに照会が行われた。新公民館の建設予定地は現在の市立咸宜小学校の校庭隣接地の一部で、この場所にはかつて養護学校の校舎（鉄筋コンクリート3階建／昭和58年に日田市西有田へ移転、その後は市庁舎別館として市文化課文化財資料室や倉庫として使用された）が存在しており、平成13年に解体され更地となっていた。当該予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である日田条里に該当し、近隣に存在する国指定史跡咸宜園跡などにおいて古代～中世の遺構群が検出されていることから、ここにも遺跡が存在する可能性があるため、平成16年度に試掘調査を実施した。その結果校舎跡地では遺構は確認されなかったが、それ以外の場所では地表下約90㎝で古代～中世と考えられる溝・柱穴などが見つかったため、公民館建物の位置が校舎跡地以外となる場合は発掘調査が必要な旨を回答した。

高　平成18年夏に建物の位置が決定し、その一部が校舎跡地外に及ぶこと、また建物基礎が地表下1m程度入るとのことから、校舎跡地外の部分について発掘調査が必要となった。調査区は小学校の校庭から高低差なくほぼ地続きで接し、登下校時や放課後などに児童および周辺住民による利用頻度が高い場所であったため、小学校に調査への理解と協力を求めたところ快諾いただいた。さらに児童・保護者・自治会等各機関への周知も図っていただくなど、小学校の先生方にはたいへん手間をおかけした。このように関係各機関のご協力のもと、11月6日に調査区を囲むフェンスを設置し、翌7日より調査開始となった。発掘調査の経過は次のとおりである。

11月　7日　重機を用いて表土除去および遺構検出を開始。同時に作業員による遺構検出および掘下げも開始。

11月16日　遺構実測開始。

12月12日　調査区の埋め戻し完了、器材撤収。

高12月19日　リース器材の返却をもって現地での作業完了。

なお、調査組織は次のとおりである。

平成18～19年度

高調 査 主 体　　日田市教育委員会

高調査責任者　　諌山康雄（日田市教育委員会教育長／～19年8月）

高　　合原多賀雄（同教育長／19年9月～）

高調 査 統 括　　後藤　清（日田市教育庁文化財保護課長／18年度）

高　　梶原孝史（同文化財保護課長／19年4～9月）

高　　原田文利（同文化財保護課長／19年10月～）

高調 査 事 務　　高倉隆人（同課長補佐兼埋蔵文化財係長／18年度）

高　　井上正一郎（同課長補佐兼埋蔵文化財係長／19年度

高　　田中正勝（同専門員 伊藤京子（同専門員）

高　　中村邦宏（同主事補／18年度）

高　　塚原美保（同主査／19年度）

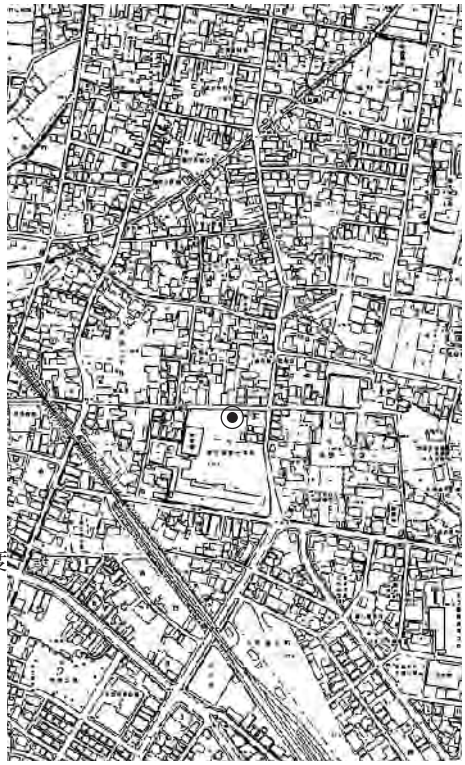
高調 査 担 当　　行時桂子（同主任）

高調　査　員　　今田秀樹（同主任／19年度主査 若杉竜太（同主任）

高　　渡邉隆行（同主任 矢羽田幸宏（同主事）

高発掘作業員　　五反田静子、後藤美知夫、財津利枝、筒井英治、原口勝利、平原知義

高整理作業員　　穴井トヨ子、宇野富子、川原君子、黒木千鶴子、坂口豊子、武石和美、田中静香、聖川暢子、吉田千津子



第１図　遺跡位置図（1/10,000）

Ⅱ　遺跡の立地と環境（第１・２図）

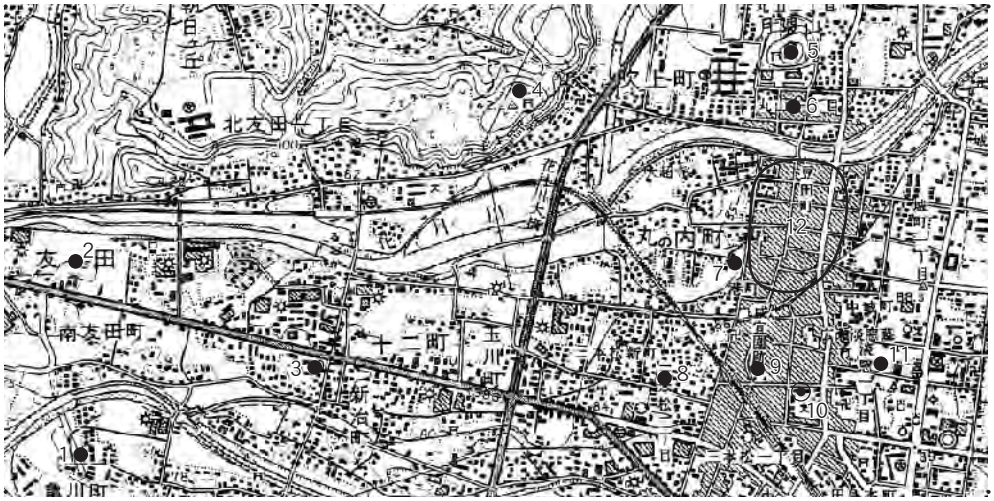
日田条里千躰地区は日田盆地のほぼ中央、標高約87mの沖積地に位置する。遺跡南北には三隈川（筑後川）と花月川がともに西流し、その他大小の河川作用により形成された沖積地上には現在市街地が広がっている。本調査区が存在するのは、東に官公庁街、北に平成16年に国の重要伝統的建造物群保存地区として選定され日田観光の中心となっている豆田地区を擁するなど、人通りが多くまた市内でも最も人口の多い賑やかな地域である。

日田盆地の歴史的環境を見るとき、盆地北側の吹上遺跡や小迫辻原遺跡に代表されるように、弥生時代～古墳時代の大規模な集落跡や墳墓群が、本調査区が存在する沖積地を取り巻く標高120～140m程の台地上に営まれたことがひとつの大きな特徴である。言うまでもなくこれは盆地を横切る河川の氾濫を避けたものであり、大掛かりな治水工事なしには居住地として不適切な沖積地上には遺跡は存在しない、または氾濫等により大きく破壊されていると長い間考えられてきた。しかしここ15年ほど相次ぐ沖積地での発掘調査により、この認識は大きく変わってきている。ここでは沖積地の遺跡について概観する。

盆地西部の徳瀬遺跡では、弥生時代前・中期および弥生時代終末期～古墳時代前期の集落跡や墳墓群が見つかっており、特に箱式石棺墓からは位至三公鏡の破片が出土するなど、長期にわたり安定した集落が営まれたようである。荻鶴遺跡では古墳時代中期の鍛冶遺構とともに鉄鋌が確認されている。郷四郎遺跡では古墳時代の住居跡や溝と中世の溝が見つかっている。瀧ヶ本遺跡では縄文時代～古墳時代の包含層が確認されている。一丁田遺跡では弥生時代後期～古墳時代初頭、古墳時代中期～後期を中心とする集落跡や中世の建物跡が見つかっており、特に古墳時代中期の竪穴遺構からは市内２例目となる鉄鋌が出土している。日田条里四反畑地区では古代の水田層が確認されている。河川の影響を受けやすい低地といえども、古くは弥生時代から、盆地内各所で氾濫などにより形成された微高地を居住区として利用していたことがわかる。

なお本調査区の西約150mには、江戸末期から明治期にかけて4,000人もの門下生を受け入れ、多くの著名人を輩出した私塾の跡、国指定史跡咸宜園跡が存在する。現在史跡は各種文献や発掘調査などの成果をもとに整備中であり、塾を開いた広瀬淡窓の住居「秋風庵」、書斎「遠思楼」などの建物が公開されているが、これら江戸期の遺跡の下層には古代～中世の集落跡が存在していたことが、発掘調査によって明らかになっている。

《参考文献》
土居和幸編『吹上遺跡Ⅰ』日田市埋蔵文化財調査報告書第43集　日田市教育委員会　2003ほか／行時志郎「3　徳瀬遺跡B区」『平成5年度（1993年度）日田市埋蔵文化財年報』日田市教育委員会　1995ほか／行時志郎編『荻鶴遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第9集　日田市教育委員会　1995／若杉竜太編『郷四郎遺跡Ⅱ』日田市埋蔵文化財調査報告書第82集　日田市教育委員会　2007ほか／矢羽田幸宏編『瀧ヶ本遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第80集　日田市教育委員会　2007／渡邉隆行編『一丁田遺跡Ⅱ』日田市埋蔵文化財調査報告書第83集　2007ほか／土居和幸編『日田条里四反畑地区』日田市埋蔵文化財調査報告書第46集　2003／土居和幸「4　史跡咸宜園跡」『平成4年度（1992年度）日田市埋蔵文化財年報』日田市教育委員会　1994ほか／日田市『日田市史』　1990



1　徳瀬遺跡
2　荻鶴遺跡
3　郷四郎遺跡
4　吹上遺跡
5　月隈城・月隈横穴群
6　永山布政所跡
7　一丁田遺跡
8　瀧ヶ本遺跡
9　史跡咸宜園跡
10 日田条里千躰地区
11　日田条里四反畑地区
12　豆田地区重要伝統的建造物群保存地区

第２図　周辺遺跡分布図（1/25,000）

Ⅲ　調査の内容

（1）調査の概要（第４図）

前述のとおり調査区は小学校の校庭と隣接し、ほぼ常時児童や周辺住民により利用されていることから、まず調査区をフェンスで囲うことからはじめ、特に重機の搬入出には小学校の敷地内を通行する必要があるため、校庭を授業で使用しない時間帯を確認し、重機の移動には調査員が付き添うなど、安全対策に万全を期した。

調査から公民館建設の着工（平成19年度）まで期間が空くため、調査後は原状回復する必要があることから、調査区内の表土（真砂土）を重機で除去し、その後遺構面まで掘り下げていった。ところがその作業中、校舎跡地であっても基礎で破壊されずに遺構が残存している部分があることが判明したため、調査対象範囲の変更（拡大）について主管課および建物設計を担当した市教育庁教育総務課と協議を行った。その際公民館建物の基礎構造について再確認すると、最深で地表下55㎝の掘削にとどまることがわかり、遺構面は十分保護されることから発掘調査を行う必要がなくなった。ただしその時点で掘下げ作業がある程度進んでいたため、既に遺構面が露出している部分について、遺構確認と遺構の時期を推定するための最小限の掘下げに留めることとなった。

調査で確認された遺構は、溝２条、土坑２基、ピット、近代以降の撹乱坑である。以下、溝・土坑と近代以降の撹乱坑のうち遺構検出面に至る深さのもの５基について説明を加える。

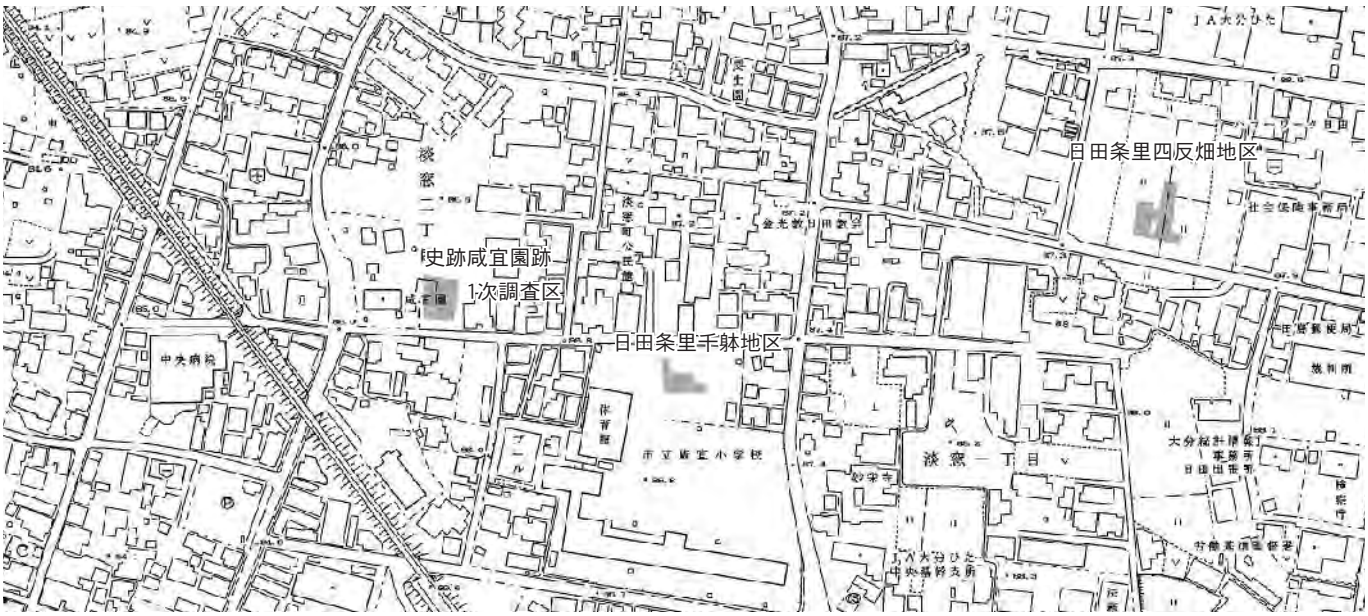
なお、遺構検出面は黄褐色砂質土で、遺構埋土は茶褐色～黒褐色を呈する砂質または粘質土である。その他輪郭が明確でなく不定形に黒い部分や、広範にわたり黒味を帯びた部分などが見られたが、これらは遺構ではなく、遺構検出面の層がその上に存在する黒色土層の影響で黒ずんだ漸移層と判断した。土層は概ね南から北（花月川方向）に向かってゆるやかに下りながら堆積している（第４図G－H土層）。

（2）遺構と遺物（第４・５図）

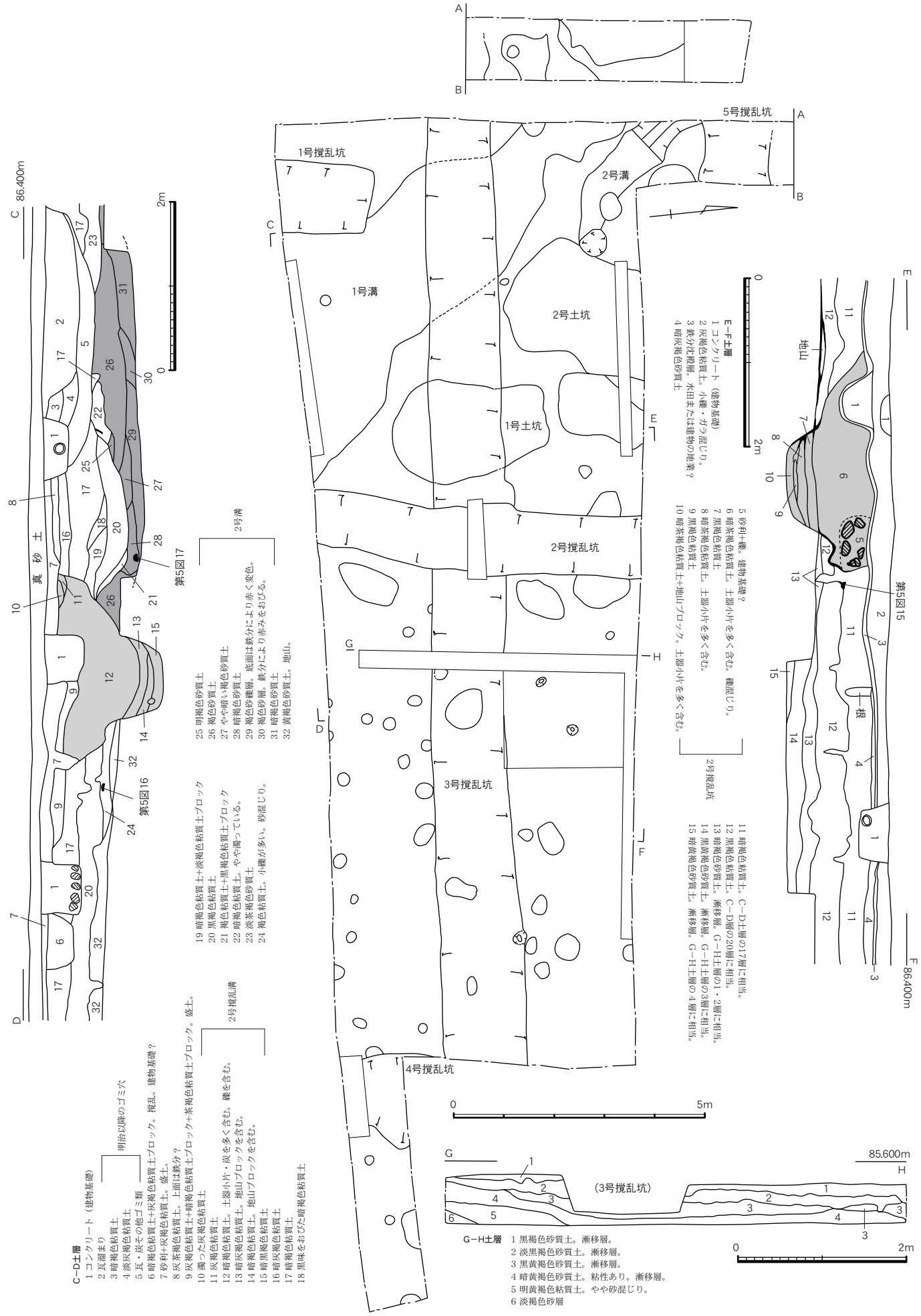
１）溝

１号溝

調査区西側で検出された溝で、南東－北西方向に伸びる。調査区内での規模は長さ約9.5m、最大幅約3.8mを測る。平面的には不定形を呈しているが埋土は明確で、C－D土層での深さは約50㎝を測る。埋土からは須恵器や土師器などが出土している。第５図１～８は上層より出土。１～３は須恵器の坏蓋と坏身である。１の口縁部は外反気味に伸びる。２の口縁部は内傾して短く立ち上がり、３は薄く長く立ち上がる。４・５は土師器埦である。



第３図　周辺地形図（1/4,000）



第４図　遺構配置図および土層図（1/100、1/60）

４は内面に暗文が施されている。６は土師器高坏である。７は土師器甕で、頸部外面にはナデの痕跡が顕著に残る。８は土師器皿である。9～12は南壁際のトレンチで溝の底面に堆積している砂質土中より出土。9は須恵器坏蓋である。10～12は土師器埦である。いずれも口縁部に向かって内湾気味に立ち上がる。

２号溝

１号溝の北側で検出された溝で、方向は1号溝とほぼ同様である。調査区内での規模は長さ約3.0m、最大幅約0.9mを測る。１号溝と同様に平面的には不定形を呈し、深さ約20㎝と浅いものの埋土は明確である。須恵器や土師器の小片が数点出土しているが、図化可能なものはなかった。

２）土坑

１号土坑

調査区中央西寄りで検出された土坑で、長軸約3.0m、短軸約2.0mを測る。中央部を大きく3号撹乱坑に切られているが、この土坑の底面は3号撹乱坑の底面より深く、遺構検出面からの深さは約48㎝＋αを測る。弥生土器や土師器と思われる小片が数点出土しているが、図化可能なものはなかった。

２号土坑

１号土坑の北西で検出された土坑で、北側は調査区外へと続く。調査区内での規模は長軸約2.7m、短軸約2.3mを測る。サブトレンチによる断面観察ではこの土坑の深さは10㎝程度と浅いが、その底面には鉄分沈澱層が見られる。埋土からは図示した弥生土器のほか、須恵器や土師器の小片が出土している。第５図13・14はともに弥生土器で、13は脚付甕、14は複合口縁壺である。

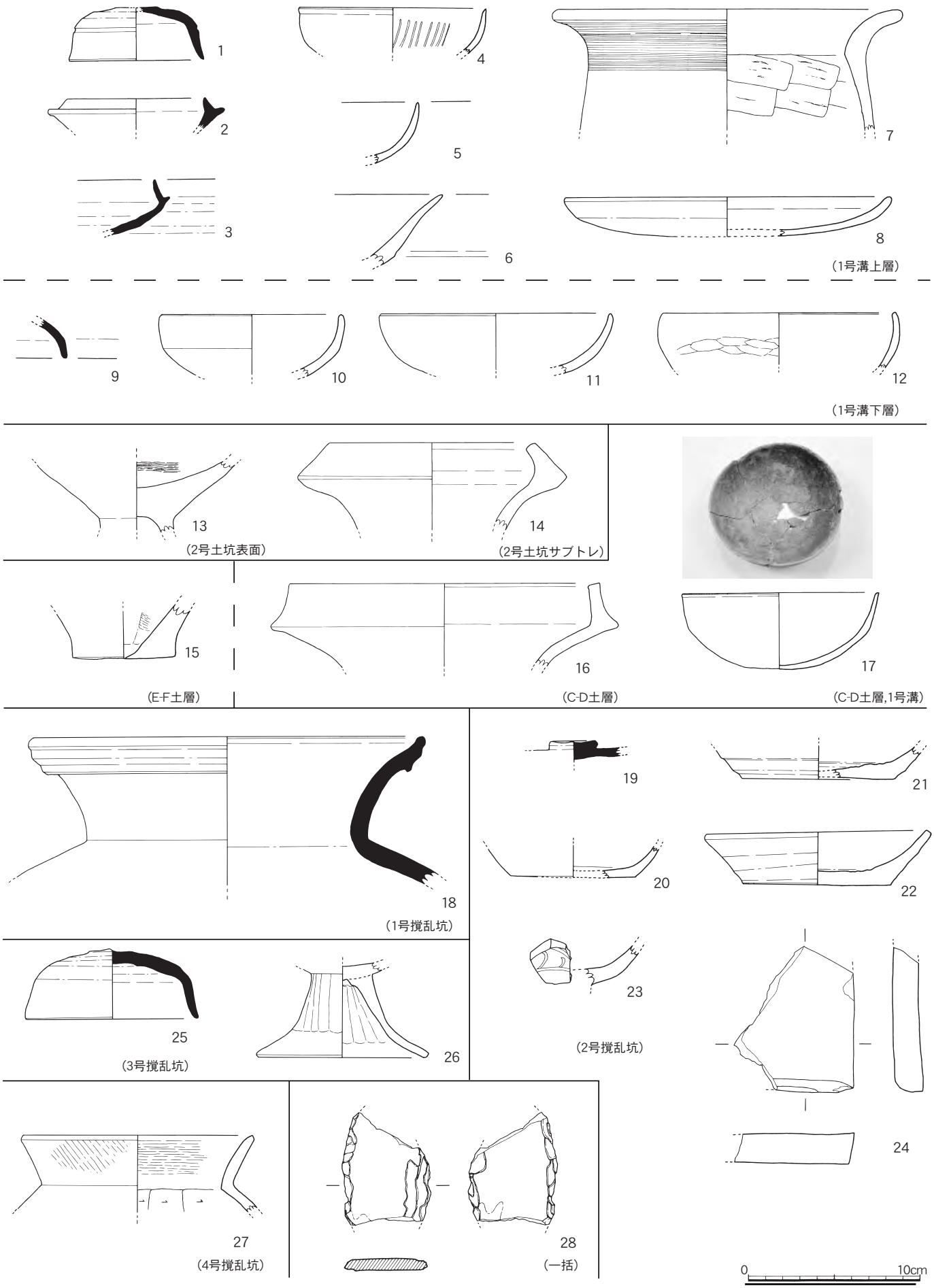
３）撹乱坑

Ｉで先述したとおり、調査区は数年前まで鉄筋校舎が建っており、また明治41年以来月隈小学校（咸宜小学校の前身）の用地などとして幾度も利用されていたため、調査区内からはその頃以降の所産と思われる撹乱坑が検出された。1号撹乱坑からはコンクリート片やガラス片、戦時中のものと思われる絵柄のついた茶碗、陶器片などとともに、須恵器壺が出土している。2号撹乱坑は調査区中央で南北に伸びる溝状を呈し、幅約1.1m、遺構検出面からの深さ約30～60㎝で底面は皿状に窪む。Ｃ－Ｄ・Ｅ－Ｆの土層観察よりこの撹乱坑は現表土に近い高さから掘り込まれていることから、明治期以降のものと思われる。埋土からは図示した中世の土器以外に弥生土器・須恵器・土師器片が出土している。３号撹乱坑は調査区中央を東西に横切る溝状を呈し、幅約1.6m、遺構検出面からの深さ約40㎝を測る。一見溝状遺構に見えるが、その断面はまるで重機で掘削したかのような矩形を呈し（第４図G－H土層参照)、図はないがやはり2号撹乱坑と同じく高い位置から掘り込まれていることから、これも明治期以降のものと思われる。埋土からは須恵器・土師器が出土している。４・５号撹乱坑はいずれもごく一部が検出されたのみであるが、埋土中にはコンクリートが見られ、校舎等の建物基礎またはその抜取痕と思われる。４号撹乱坑からは土師器甕が出土している。５号撹乱坑からは小土器片と染付片が出土している。

これらのほか、遺構検出面に至る深さではないが、調査区壁面の土層にも数多くの撹乱坑が見られる。

４）その他の遺物

調査区壁面から第5図15～17の土器と28の石器が1点出土している。15はＥ－Ｆ土層11層出土の弥生土器甕である。底部中心部が薄くなっており、甑の可能性がある。16・17はＣ－Ｄ土層出土。16は24層出土の弥生土器の複合口縁壺である。２号土坑出土のものに比べて、口縁端部が上方に立ち上がる。17は28層（１号溝）出土の土師器坏である。内底面に「×」のヘラ記号がある。28は打製石斧の一部と思われる。



第５図　出土遺物実測図（1/3）

Ⅳ　まとめ

今回の調査では、溝や土坑などの遺構と遺物が検出された。それぞれの時期を確認すると、まず１号溝では、砂を基本とする下層から端部を丸くおさめた須恵器坏蓋のほか土師器坏が出土しており、その特徴から６世紀末～7世紀前半と考えられる。対して砂質土を基本とする上層の遺物は下層と同時期のものを中心としながらも、古くは弥生時代後期の高坏から、新しくは古代の皿までを含む。溝としての機能の中心は6世紀末～7世紀前半で、その後各時期の遺物を含みながら７世紀後半ごろに埋没したと想定できよう。２号溝については時期比定可能な遺物がないため詳細は不明であるが、埋土の状況や僅かな遺物から１号溝とかけ離れた時期ではないと思われる。１号土坑は埋土がひときわ黒く、他の遺構とは時期が異なる可能性があるが、遺物が少なく詳細は不明である。２号土坑からは図示した弥生時代後期後半の土器が出土しているが、同時に須恵器・土師器片も存在することと埋土の質や色調から、溝と同時期の可能性も考えられる。これらの遺構のほか、調査区内で確認された後世の撹乱坑からは、溝などの遺構が形成された時期に相当する遺物のほか、古代の土師器坏や中世後期の土師質土器坏、龍泉窯系の青磁片が出土しており、今回の調査区内では当該時期の遺構は確認されなかったものの、周辺に存在する可能性があることがわかった。

今回の調査区周辺では、Ⅱで先述のとおり史跡咸宜園跡や日田条里四Ｖ反畑地区などで古代～中世の遺構が確認されているが、古墳時代の遺構Ｖは見つかっていなかった。今回の調査により少なくとも古墳時代からこＶのあたりが居住地として選択されていたことが明らかになったといえる。

Ｖ　また今回の調査区では近代以降の幾度もの開発に破壊されることなくＶ遺跡が残存していたことから、現在建物等が存在していてもその地下にＶ遺跡が保存されている可能性があることを示唆している。

写真４　史跡咸宜園跡の古代～中世の集落跡（1次調査）

Ｖ《参考文献》田辺昭三『陶邑古窯跡群Ⅰ』平安学園考古学クラブ　1966

Ｖ　重藤輝行「Ⅳ　おわりに　1仁右衛門畑遺跡を中心とした浮羽郡の古墳時代土師器編年」『仁右衛門畑遺跡Ⅰ』福岡県教育委員会　2000

Ｖ　大庭孝夫「Ｖ　まとめ　3堂畑遺跡周辺における7世紀後半～8世紀末の土師器の変遷について」『堂畑遺跡Ⅲ　下巻』福岡県教育委員会　2005

第１表　出土遺物観察表

挿図番号	遺構名	種別	器種	法量				調整		胎土	焼成	色調		備考
				口径	胴部径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
5-1	1号溝サブトレ上層	須恵器	坏蓋	(7.9)	－	－	3.1	回転ナデ	回転ナデ	B	良	暗青灰色	暗青灰色	
5-2	1号溝上層	須恵器	坏	(8.0)	－	－	(1.8)	回転ナデ	回転ナデ	BC	良	淡青灰色	淡青灰色	
5-3	1号溝上層	須恵器	坏	－	－	－	(3.2)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	B	良	紫灰色	紫灰色	
5-4	1号溝サブトレ上層	土師器	坏	(10.8)	－	－	(2.6)	ナデ	ナデ	B	良	淡橙褐色	淡橙褐色	内面に暗文あり。
5-5	1号溝表面	土師器	坏	－	－	－	(3.6)	ナデ	ナデ	B	良	淡橙褐色	淡橙褐色	
5-6	1号溝表面	弥生土器	高坏	－	－	－	(4.1)	ナデ	ナデ	BG	良	淡赤褐色	淡黄褐色	金雲母含む。
5-7	1号溝表面	土師器	甕	(20.4)	－	－	(7.1)	ナデ	ケズリ・ナデ	ABC	良	淡褐色	淡褐色	
5-8	1号溝表面	土師器	皿	(19.1)	－	－	(2.3)	不明	ナデ	BC	良	淡褐色	淡褐色	
5-9	1号溝サブトレ砂層下	須恵器	坏蓋	－	－	－	(2.2)	回転ナデ	回転ナデ	BC	不良	淡黄灰褐色	淡黄灰褐色	
5-10	1号溝サブトレ砂層下	土師器	_	(10.5)	－	－	(3.6)	ナデ	ナデ	BD	良	淡橙褐色	淡橙褐色	
5-11	1号溝サブトレ砂層下	土師器	_	(13.4)	－	－	(3.5)	不明	不明	BD	良	淡橙褐色	淡橙褐色	
5-12	1号溝サブトレ砂層下	土師器	_	(13.6)	－	－	(3.2)	ケズリ・ナデ	ナデ	B	良	淡赤褐色	淡赤褐色	
5-13	2号土坑表面	弥生土器	脚付甕	－	－	－	(4.2)	不明	ハケ	ABC	良	淡赤茶褐色	淡赤茶褐色	
5-14	2号土坑サブトレ	弥生土器	壺	(11.8)	－	－	(5.1)	ナデ	ナデ	ABC	良	淡褐色	淡褐色	袋状口縁壺
5-15	北壁-1	弥生土器	甕？	－	－	(6.0)	(3.1)	不明	ハケ	ABC	良	暗褐色	黒褐色	甑？
5-16	南壁-1	弥生土器	壺	(18.0)	－	－	(4.9)	ナデ	ナデ	ABC	良	淡黄灰褐色	淡黄灰褐色	
5-17	南壁-2	土師器	坏	11.4	－	－	4.5	不明	ナデ	BD	良	淡橙褐色	淡橙褐色	内面にヘラ記号「×」あり。内面は褐色で光沢がある。
5-18	1号撹乱坑	須恵器	甕	(23.0)	－	－	(8.7)	タタキ・ナデ	タタキ・ナデ	AB、緻密	不良	淡灰色	淡灰色	風化が著しい。
5-19	2号撹乱坑	須恵器	坏蓋	－	－	－	(1.1)	ナデ	不明	B	良	淡灰色	淡灰色	つまみ径2.8㎝
5-20	2号撹乱坑	土師器	坏	－	－	(7.4)	(1.9)	ナデ	ナデ	AB	良	淡橙褐色	淡橙褐色	
5-21	2号撹乱坑-1	土師質土器	坏	－	－	(9.0)	(1.9)	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	ABCD	良	暗褐色	暗褐色	底部糸切り。内底に渦状工具痕を残す。
5-22	2号撹乱坑	土師質土器	坏	13.2	－	8.7	3.2	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	ABCD	良	淡橙褐色	淡橙褐色	底部糸切り。内底に渦状工具痕を残す。
5-23	2号撹乱坑	青磁	碗	－	－	－	(2.3)	-	-	－	良	暗緑灰色	暗緑灰色	龍泉窯系
5-25	3号撹乱坑-2	須恵器	坏蓋	10.1	－	－	4.1	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	B	良	暗青灰色	暗青灰色	天井外面は円形つまみの痕跡か？
5-26	3号撹乱坑-1	土師器	高坏	－	－	(10.0)	(5.5)	ケズリ・ナデ	ケズリ・ナデ	BG	良	淡橙褐色	淡橙褐色	金雲母含む。
5-27	4号撹乱坑	土師器	甕	(13.6)	－	－	(4.5)	ハケ・ナデ	ケズリ・ナデ	ABC	良	淡褐色	淡褐色	
挿図番号	遺構名	種別	器種	備考										
5-24	2号撹乱坑	－	平瓦	6.7㎝＋α×4.5㎝＋α、厚さ1.8㎝。色調：淡褐色。胎土：ABCH										
挿図番号	遺構名	種別	器種	長さ	幅	厚さ	備考							
5-28	一括	石器	打製石斧	(6.6)	5.1	0.7	石材：安山岩。上下を欠く。							

※単位は㎝。（　）は現存長。　胎土…A：角閃石　B：石英　C：長石　D：赤色粒子　E：白色粒子　F：黒色粒子　G：雲母　H：砂粒

写真図版 1

調査区全景（東から）

調査区全景（北東から）

１・２号溝（南から）

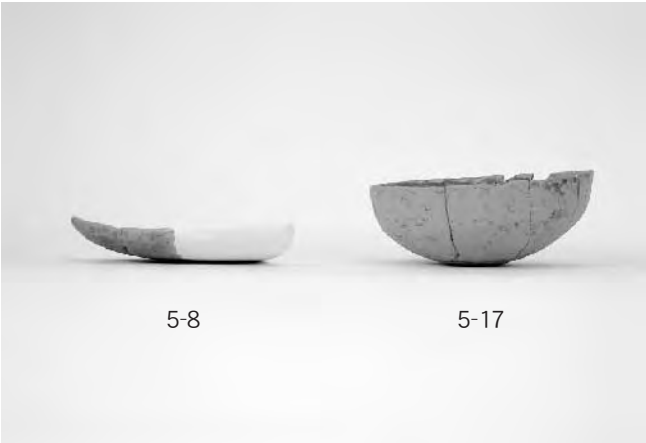
２号溝掘下げ状況

２号土坑サブトレ土層

調査区南壁（Ｃ－Ｄ）土層

調査区北壁（Ｅ－Ｆ）土層

調査区中央（Ｇ－Ｈ）土層



遺物写真１（１号溝、調査区南壁Ｃ－Ｄ土層）

遺物写真２（撹乱坑）

報　告　書　抄　録

ふりがな	ひたじょうりせんたいちく
書名	日田条里千躰地区
副書名	－
巻次	－
シリーズ名	日田市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	85
編著者名	行時桂子
編集機関	日田市教育庁文化財保護課
所在地	〒877-0077　日田市南友田町516－1
発行機関	日田市教育委員会
所在地	〒877-8601　日田市田島2－6－1
発行年月日	2008年３月31日（平成20年３月31日）

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
日田条里 千躰地区	大分県日田市淡窓 １丁目115－１	44204-6	651044	33°19′20″	130°56′11″	20061106 ～20061219	140㎡	公民館建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
日田条里 千躰地区	集落	古墳時代 ～中世	溝２条、土坑２基、 ピット多数	須恵器、土師器、 土師質土器、青磁、瓦	古墳時代後期を中心とする集落の存在が確認され、弥生時代や古代・中世の遺構も周辺に存在する可能性があることがわかった。

日田条里千躰地区

日田市埋蔵文化財調査報告書第85集

2008年３月31日

編　集　日田市教育庁 文化財保護課
〒877-0077　大分県日田市南友田町516-1

発　行　日田市教育委員会
〒877-8601　大分県日田市田島2-6-1

印　刷　尾花印刷有限会社
〒877-0026　大分県日田市田島本町8-8

日 田 市

R100
PRINTED WITH SOY INK